

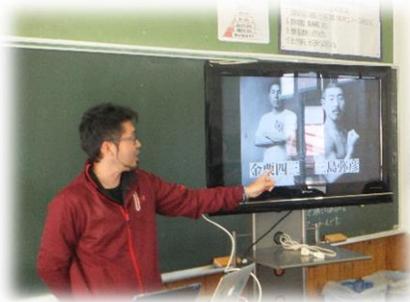
2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

学校名【塩竈市立第一中学校】

1 実践テーマ	I ・ III ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	塩竈市立第一中学校 第2学年90名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（保健体育） ② 行事名（ブラインドサッカー体験・講演会） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	(1) 障がい者スポーツ体験、講演会を通して、障がい者スポーツに対する理解を深めるとともに、共生の大切さを学び、自分の生き方を考える機会とする。 (2) スポーツを通して、夢や希望を持ち挑戦する心を養い、地域や社会に貢献する力を育む。 (3) 2020年に行われる東京オリンピック・パラリンピックについての興味・関心を高める。
5 取組内容	(1) 事前学習：保健体育 ① 「オリンピック・パラリンピックについて」 ・オリンピック・パラリンピックの意義と歴史、そして東京オリンピック開催に向け尽力した人々の取組を、映像教材を用いて学び、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高めた。   ② 「パラリンピック競技ブラインドサッカーについて」 ・素人チームがブラインドサッカーに挑戦する映像を見て、目が見えない状態で競技することの難しさを感じることができ

た。また、ブラインドサッカーチームが試合する映像を見て、ルールを理解するとともに、そのスピード感と技術の高さに関心していた。

- ・パネルディスカッションに向けてブラインドサッカーについての質問と、目が見えづらいことへの質問を考えた。

(2) ブラインドサッカー体験・講演会

ブラインドサッカーチームから日本代表候補のキーパーと、女子日本代表のフィールドプレイヤー、そしてチームに所属している一中の弱視学級に在籍している生徒を講師に迎え、午前はアイマスクをしてのブラインドウォーク体験やブラインドサッカー体験を行った。



午後からは、講師3人に壇上に上がってもらい、事前に集めた質問事項を司会の生徒が質問する形でのパネルディスカッションを行った。「ブラインドサッカーの魅力は？」など、ブラインドサッカーという競技についての質問から、目が見えづらいという障がいについての質問、そして今後私たちが障がいを持った人たちに出来ることなどについて、とても丁寧に答えていただき、有意義な時間を過ごすことができた。



(3) 事後指導

- ・振り返りとアンケート記入

<p>6主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ブラインドサッカーの体験を通して、東京 2020 大会に向けて、パラリンピックスポーツへの興味・関心を高めることができた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">〈興味関心の変化〉</p> <ul style="list-style-type: none"> • 事前アンケート 「興味がある52%、興味がない48%」 • 事後アンケート 「興味がある88%、興味がない12%」 <li style="padding-left: 40px;">「オリンピック・パラリンピックを 見る93%、見ない7%」 </div> <ul style="list-style-type: none"> • アイマスク体験やブラインドサッカー体験を通して、障がいを持つ方の日頃の苦勞を知り、今後自分の出来ることを考え行動することが大切であることに気づくことができた。 • 講師の方々からの話から、多少の困難なことがあっても、夢を持ちその実現に向け努力することの大切さを学んだ。
<p>7実践において工夫した点 (事業の 特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒の関心を高めるため、事前学習においては映像教材を使い視覚からの情報でインパクトを与えた。 • 一中にブラインドサッカーチーム「コルジャ仙台」に所属している生徒がいることから、選手の派遣と講演会の実施が好意的に進んだ。 • 講演会は生徒の司会進行によるパネルディスカッション形式で行い、事前に質問事項をお渡しして、スムーズな進行に心がけた。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 東京 2020 に向けて、今回は保健体育の授業の中で時間を取りオリンピック・パラリンピックムーブメント事業を行ったが、今後はどの教科、領域にどのように位置づけてやっていくかを考え、計画的に実践していく必要がある。 • 活動を充実させていくためには、全教員がオリンピック・パラリンピック教育についてさらに研修を積み、協力体制を整えて取り組む必要がある。
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 保健体育の指導の中で、スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学びを推進していきたい。 • 4月に実施される修学旅行において、オリンピック施設などを回り、オリンピックやパラリンピアンと対面する企画を計画中である。